

## 東海道五十三次の内

石部宿～大津宿まで歩く

YUME 追い人

長野より中自動車道を経て名神高速道路へ入り、瀬田西ICで下りる。2018年10月12日(金)は長野県も滋賀県も曇りから晴れになるとの天気予報で、気持ち良く歩ける。

前回ゴールしたセブンイレブン湖南三雲店近くの駐車場に大型バス2台が停まり、ここで歩くための準備運動、通る所の名所旧跡の説明、歩く時の注意事項等をウォークリーダー(随行案内人)より聞く。

本日のウォークリーダー(随行案内者)は、1号車桃川さん(男性)2号車松本さん(男性)。トラビスジャパン添乗員は1号車松橋さん、2号車石原さん。参加者1号車(東北信の方と中信の方半分)28名、2号車(中信の方半分と南信、山梨県の方)計30名で合計58名である。

石部宿入口にもう1つ「天井川」がある。由良谷川である。川の下トンネルを通り、江戸日本橋から115里の「夏見一里塚」を通る。北島酒造店、高木陣屋跡から高札場跡、問屋場跡、石部本陣跡、田楽茶屋を通る。本陣のある周辺が石部宿の中心街であったと聞く。石部宿の街並みも、家並みと格子戸が残っていて綺麗な。

石部宿についてウォークリーダーの説明を聞く。

『江戸日本橋より五十一番目の宿場町の石部宿は、滋賀県湖南市になります。江戸時代の石部宿の名物として「焼き豆腐田楽」があります。旅人はここで一休みして田楽を食べ、京師(京都)まで約37km、残り1日の工程をここで力を蓄えます。江戸時代の旅人は1日約35km～40km歩きます。石部宿には宿場関係の特定の建物はほとんど残っていません。街並みに説明板があるだけです。

東海道五十三次は、次の宿場町「草津宿」が五十二番目の宿場町、五十三番目が「大津宿」になり、ここで五十三次の「次」が終わり、最終の京都になります。「次」は荷物の受け渡しを司り、前宿から来た荷物を次の後宿へ荷物を「継ぎ送る」という事で、「五十三継＝次」と呼ばれたからです。各宿場には「伝馬」(馬一頭当たり112.5kg運搬)を常備しなければなりません。伝馬を使うには朱印状が必要で、何匹常備するかは幕府から宿場に指定され、宿場によって違います。運ぶ荷物は幕府関係の荷物や外国使節団の荷物、位の高い公家、参勤交代の荷物、等色々です』

石部宿の東見附近には「猿飛佐助のふるさと」という横断幕があったが、司馬遼太郎の小説にある、甲賀流忍者「猿飛佐助」が子供の頃に三雲城で育ち修業をしたと書かれている。—中略—

石部宿を北西に向かって歩く。JR石部駅の近くを通り、石部田楽茶屋、江戸日本橋より116番目の石部一里

塚を通過し、石部西の見附跡へ来る。本日のゴールは「あけぼの公園」で整理運動してから大型バスに乗り、御料理処「宝山園」で夕食をとる。

今日の昼食は、仕出し割烹の「うをそう」で作ったお品書きの付いたお弁当をいただいた。夕食はジンギスカン料理をメインとした焼肉料理をいただく。両方共美味しい料理で満足満足。今回の東海道五十三次の「歩け歩け」では、どの食事でも大変美味しくいただけた。

宝山園から「アーバンホテル南草津」のホテルへ行く。今回の初日はこのホテルで終わり、歩数計を見たら10.1km歩く。シャワーを浴び明日の天気予報をテレビで見て、ベッドに入る。

ホテルの食事処で朝食を取り、8時30分にホテル駐車場に待っている大型バスに乗り、昨日ゴールした地点に行く。今日は2018年10月13日(土)。いつもの様に歩く前の準備運動、本日の名所旧跡の案内、トイレの場所、歩く時の注意事項等を聞く。今日のウォークリーダー(随行案内者)は昨日と違い、1号車望月さん(女性)2号車宇都宮さん(女性)である。

石部宿中心地から野洲川を近くに見て「旧和中散本舗」まで歩く。

「旧和中散本舗」は大きな土蔵造りの建物で、街道に沿って大きな木製の戸の付いた門。その横から建物が18.2m(10間)続きの大きな家。本屋の下屋霧除けは細工が見事なものだ。

「旧和中散本舗」とは、「和中散」と言う風邪薬を全国に売った有名な薬屋」とウォークリーダーの話。今は「大角家」となっている。

街道向かいの隠居所と共に、国の重要文化財に指定されており、中の庭園も2001年に国指定の名勝となっている。中へは入れなかったが、街道沿いに長く奥の深い家で重厚さがある家だ。

滋賀県草津市に入る。ここは草津宿で東海道沿いに商人の建物(商売家)が続く。



旧和中散本舗の門と店



店舗前の持送り

『「右東海道いせみち、左中仙道美のち」と刻まれた道標が立つこの地は東海道と中山道の合流地点。棹部分が石製で火袋が木製の常夜燈が今に残されています。』とウォークリーダーの話。

追分道標を過ぎ、草津宿高札場を通り、草津川の渡し場へ来る。

草津川河川敷の所に河川敷を利用して「de愛ひろば」がある。散歩道、お休み処、お食事処 トイレ レストラン、コーヒー処 等営業している。近くに「草津宿



de愛ひろばで小休止

街道交流館」や草津宿本陣、常善寺、小汐井神社、草津夢本陣、等色々な施設がある。幼児を連れて行っても1日家族ゆっくり安全に遊ぶ所だ。

太田酒造の横を通る。ここでウォークリーダーの説明を聞く。

『太田酒造の先祖は、関東管領の扇谷上杉家の家老として24歳の若さで江戸城を築城しました。乱世の関東を鎮無する為の拠点として建てられた城は、当時の常識を覆した画期的で独創的な設計によって後世まで守り伝えられる名城となりました。後に徳川家康が増築して入城した江戸城です。太田道灌から六代目の孫、太田正長の時に幕府内命を受け、近江草津に移住し(三代徳川家光の時)水陸交通の要所である草津宿において街道の動静を見張る「関守」の役目として「人馬継立所」や、「貫目改所」の公務を代々果たしました。太田家の酒造りは江戸末期になり、百余町歩の田とその年貢米として納められる良質な「近江米」を有効に使うために酒を作り出したのが始まりとされており、以後酒造りを生業として発展し、今では酒造りだけでなくワイナリーも建設してワインも世に送り出しています。伝統がある高級酒「金紋道灌」が有名です。

草津宿は江戸より百十八里三町(約463.7km)で、次宿の大津宿へ三里二十四町(約14.4km)あります。街並み東西4町38間、南北7町15間半あり、家数586軒(内本陣2軒 脇本陣2軒 旅籠72軒)ありました。人口は女性1,179人、男性1,172人、合計2,351人でした。追分道標や田中本陣、立木神社 旧追分の道標 矢橋湊の道標等、この町には見る所がたくさんあります。

草津宿は東海道と中山道の分岐点で石碑やマンホールに色々刻まれたり書かれたりしています。

この辺りの矢倉村では、立場(休息所)があり「うばが餅」が有名です。「廣重」は「東海道五十三次の内草津名物立場」



矢倉村の立場跡の石碑



草津宿のマンホール

で立場茶屋の「うば餅屋」の名物「うばが餅」を売っている女性を描いています。』

草津宿本陣や脇本陣を見るために街中を歩く。名産のお茶の看板の下に藤屋興左衛門、問屋役人太田又四郎、等の看板が壁に掛かっている。立木神社へ寄る。ここが本日のゴールになる。神社に入ると狛犬の代わりに鹿が御神鹿になっている。神様のお使いをしているのが鹿らしい。



草津宿「本陣」

本日の夕食は船料理「びわこの千松」でいただく。鮮魚、焼き魚、天ぷら、等、多くの副菜があり、腹いっぱい食べる。



立木神社鳥居

「アーバンホテル南草津」へ行く。今日の歩行距離は14.6km。シャワーを浴び明日の天気予報をテレビで見てベッドに入る。明日も天気の良いようだ。



神様のお使いをしている鹿

「アーバンホテル南草津」の食事処で朝食をいただき、ホテル駐車場に止まっている大型バス2台にそれぞれ集合して8時15分に出発する。ウォークリーダーと添乗員さんは昨日と同じ人。

昨日のゴール「立木神社」近くの駐車場で下車。本日のルートと名所旧跡、トイレの場所等 説明を受け、準備運動をしてから出発する。

昨日と同じ立木神社の中に入り、ウォークリーダーの説明を聞く。

『立木神社は神護景雲元年(767年)の創設と伝えられ、境内の手水場脇に滋賀県最古の道標があります。延宝8年(1680年)の年号が刻まれ、中山道と東海道の分岐点に立っていたものと考えられます。西へ向かって歩くと滋賀県草津市野地町にある野地一里塚跡を通り、「野地萩の玉川」に着きます。ここは清水が湧き出ている所で「野地」の地は中世には宿場として栄え、「萩の玉川」は歌に良く詠まれました。以前泉は枯渇しましたが現在は改修工事の結果、泉から水が湧いています。平安時代の古歌にも詠まれた「六玉川」の一つに数えられ、「萩」が有名だったため「萩の玉川」とも呼ばれました』

この街にも衣類と食料を売ったらしい「京屋」「里内呉服店」「塩屋藤五郎」と屋号の木製看板が壁に掛かっている家や、玄関上の破風板の所に瓦材で焼いた布袋様



らしき像が箱の中に飾ってある家等、色々見るとやはり商人の街らしい。

江戸日本橋より117里の六地藏一里塚を横に見て、行者堂、JR手原駅を通る。

古代建物群が発掘された手原遺跡の石碑が立っている所に来た。

「手原遺跡は東西700m、南北500mの地域で、商工会館建

設により発掘調査の結果、白鳳時代から平安時代前期にかけての寺院建築の遺構と、平安時代後期から鎌倉時代前期にかけての掘っ立て柱建物群の発掘、土

器や古瓦も発掘された。さらに付近の土地から、平安時代後期の大規模な掘っ立て柱式建物群も検出した。これらの事から旧栗木郡北東地域の中心地の「役所」であったと推定される」と石碑に彫ってある。

日本橋から118里の「目川一里塚」近くにある目川池を通過する。目川立場の田楽茶屋、元伊勢屋跡の看板を見る。立場は旅の途中、休んだり食事をとったりする所で、ここの「田楽茶屋」は地元産の食材を使った菜飯と田楽で独特の風味を有し、田楽発祥の地で東海道の名物となったという。田楽茶屋は立場の元伊勢屋（岡野屋）と古志ま屋（寺田家）京伊勢屋（西岡家）の3軒を言い、すべてがこの岡の地に店を構えたという。

少し行くと「すずめ茶屋」の跡立看板がある。ここの立場で、茶屋があると楽しいものだと思う。

中里大明神、御太刀大明神、稻荷神社 等商売繁盛のお稲荷さんが多数ある。江戸時代後期に伏見稲荷信仰が広まったのだろうか。

草津宿へ行く途中、かの有名な医者シーボルトが文政九年四月「善性寺」を訪ねている。シーボルトは医学者の立場でなく、植物学者の立場から寺住職の「恵教」にスイレン、ウド、モクダチバナ、カエデ等の珍しい植物を見て長崎に帰った。と彫ってある石碑を見る。

車の通る道路に良く見かけるのが子供の姿を描いた交



「萩の玉川」の泉



商人の街にあった玄関上の「布袋様」



手原遺跡の石碑



田楽茶屋 京伊勢屋 (西岡家) 跡

通安全の表示板で、「30km/H 厳守」とか「子供が通りますのでご注意ください」等の標識があるが、ウォークリーダーの話では、滋賀県栗東市が発生の地だと聞く。

江戸日本橋より120里目の月輪池一里塚（滋賀県大津市一里山）に着く。

ウォークリーダー（随行案内者）の話聞く

『ここ月輪池の次に来る121里目の一里塚があった所があります。現在は石碑のみが立っているだけです。この先へ行きますと「建部大社」へ着きます。それを戻って「瀬田の唐橋」を渡ると江戸から五十三番目の宿場町大津宿になります。』

建部大社は長い歴史と由緒を持つ全国屈指の古社で、社殿は「日本武尊」を祀る正殿と、「大己貴命」を祀る権殿が並び立つ大社です。古くから歴代朝廷に尊信され、武将たちの崇敬も深く集めました。特に源頼朝が平家に捕らえられて伊豆に流される途中、建部大社に寄って源氏再興の祈願をし、その願いが叶って以来、武運来運の神として信仰を集めました。』

建部大社の大鳥居は大きく立派なもので、鳥居の下を通り社内に入る。幾つも鳥居があり、狛犬も幾つもある。最終の狛犬がいる入口に着く。拝殿、神饌殿、神楽殿、御祈禱所や大きな提灯が下がっている建物、小さい提灯がたくさんかけてある建物、等が大きな敷地の中にある。敷地内に現代風に歴史を漫画チックに何枚もの絵で表現しているので、身近な神社と感ずる。若い人も入りやすい。

建部大社を通り、「日本三大名橋」の一つである「瀬田の唐橋」へ行き、金色の手摺の橋を渡る。今日のゴールは「瀬田の唐橋」である。今日の歩いた距離は12.4kmで今回3日間で歩いた総距離は37.1km。長野へ帰る大型バス2台が「瀬田の唐橋」近くの駐車場に待っていた。整理運動をしてバスに乗り込む。

バス内で京都「胡蝶庵」のお品書きの付いた弁当を美味しくいただき、バスは長野へ向かって出発する。車内ではお菓子を食べる人、着替える人、おしゃべりする人、昼寝する人、様々である。次回で「歩け歩け」は京都に着き、最終回を迎える。



立体の交通安全表示板



建部大社入口の鳥居



日本武尊の大きな絵



日本三大名橋の一つ「瀬田の唐橋」